

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/09/01

中国の景気減速懸念の度合いを確認

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	米FOMCも波乱要因 予想レンジ: 82.000 ~ 88.700 円	2-3
NZドル/円	↘	RBNZの利下げと声明の行方 予想レンジ: 73.000 ~ 80.000 円	4-5
ランド/円	➡	主要国株価睨み 予想レンジ: 8.600 ~ 9.500 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

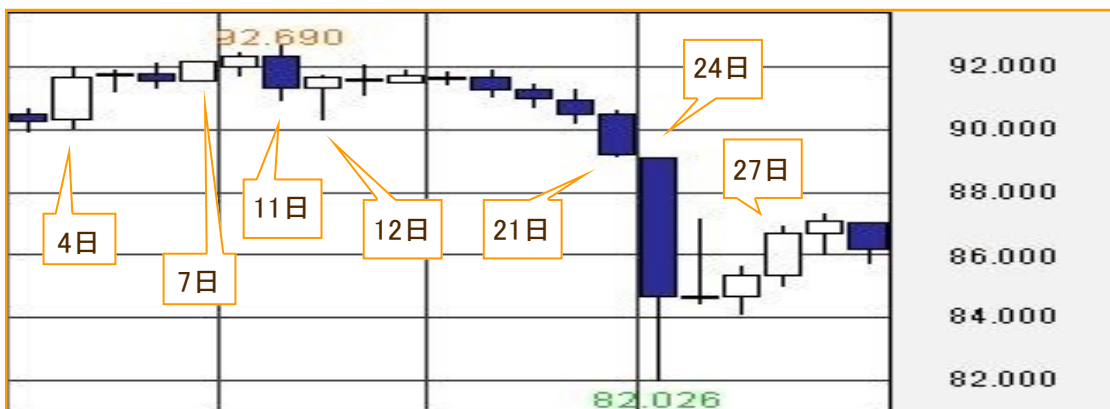
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 8月の推移

AUD/JPY

8月の豪ドル/円相場は82.026~92.690円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.7%の大幅な下落(豪ドル安・円高)となった。

月初は豪中銀(RBA)が利下げを急がない様子を見せたことでジリ高歩調を辿ったものの、11日に中国が人民元の対ドル基準値を大幅に切り下げると、豪州の対中貿易にマイナスと受け止められ、豪ドル/円は軟化。下旬には中国の景気減速懸念背景とする世界的な株安の流れの中で豪ドル/円は急落し、2012年11月以来の安値水準となる82.026円まで下値を切り下げた。ただ、その後は中国の株価対策などを受けて主要国株価が安定。また、商品価格も下げ一服感が出たことから、豪ドル/円は下げ幅を圧縮した。



四本値

OPEN	90.542
HIGH	92.690
LOW	82.026
CLOSE	86.227

4日	豪6月貿易収支が29.33億豪ドルの赤字(予想:30.00億豪ドルの赤字)、豪6月小売売上高が前月比+0.7%(同:+0.4%)と双方予想よりも強めの結果で、豪ドル/円は上昇。その後、RBAは政策金利に据え置きを発表した上で、声明において「現在の金利水準が効果的かどうか引き続き検証」「金利据え置きは適切」「金融政策は緩和的であるべき」「成長は長期的平均を下回るだろう」「豪ドルは商品価格の下落に適応している」「インフレは目標内」「雇用の伸びは幾分強まってきた」「住宅市場のリスク抑制に向けて他の当局と協力」とした。前回までであった「豪ドルのさらなる下落の可能性があり、必要である」との「豪ドル高牽制文言」がなくなった事、9月利下げを急がない様子が注目され、豪ドルは大幅に上昇した。
7日	RBAは金融政策報告を発表し、国内総生産(GDP)の2016年末見通しを+2.00-3.00%と下方修正(5月:+2.75-3.75%)した一方、基調インフレの2016年末見通しを+2.00-3.00%(5月:+1.75-2.75%)、2017年末を+2.00-3.00%(5月:+1.75-2.75%)と、それぞれ上方修正した。インフレ見通しの上方修正を受けて利下げ観測が後退すると、豪ドル/円は上昇した。なお、同報告では「緩和的な政策は適切、見通しを引き続き検証」「米FRBが今年利上げすれば、豪ドルは一段と下げる『妥当な可能性』がある」「中国経済のリスク、依然、幾分下向き」「豪ドルの一段安は、交易条件悪化に適応する事を支援」「シドニーとメルボルンで住宅価格が急上昇しているが、他の地域では伸びが弱い」「労働市場には依然緩みがあるが、以前の予想よりも若干縮小」とした。
11日	中国が人民元の基準値の切り下げを実施。豪ドル/円相場では「豪州の最大貿易相手国である中国の人民元切り下げは、豪州の対中国貿易にはマイナス」と受け止められ、豪ドル/円は失速。さらに、中国の景気減速懸念を背景とする原油安も重石となり、豪ドル/円は91.00円前後まで下値を切り下げた。
12日	前日に引き続き中国人民銀行が人民元の基準値を大きく引き下げた事を受けて豪ドル/円は90.364円まで下落。しかし、中国人民銀行が元安のペースを調整するために介入を行ったと報じられると、豪ドル/円は切り返した。
21日	中国8月財新製造業PMI・速報が47.1と予想(48.2)よりも弱い結果となった事を受けて、豪ドル/円は下落。さらに、中国の景気減速懸念を背景とした原油安が進む中で、NY市場でも豪ドル/円は下値を切り下げた。
24日	日経平均、中国株が大きく下げた事を受けて豪ドル/円は下落した。さらに、欧州・米国市場でも主要国株が急落し、国際商品価格も軒並み大幅安となる中でリスク回避ムードが強まり、円が全面的に上昇。この中で豪ドル/円は82.026円と2012年11月以来の安値を付けた。
27日	上海株が終盤に上昇。「中国政府が9月3日の軍事パレードを控え、株価を支えるために本日介入した」と報じられる中、豪ドル/円は上昇。さらに、この日発表された複数の米経済指標が好結果だった事を受けてNYダウ平均やNY原油が上昇すると、豪ドル/円は上げ幅を拡大した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	20540.21
HIGH	20946.93
LOW	17714.30
CLOSE	18890.48

NYダウ平均

OPEN	17696.74
HIGH	17704.76
LOW	15370.33
CLOSE	16528.03

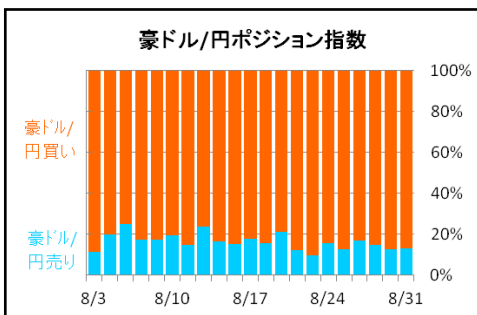
上海総合指数

OPEN	3614.990
HIGH	4006.337
LOW	2850.714
CLOSE	3205.986

豪10年債利回

OPEN	2.744%
HIGH	2.859%
LOW	2.479%
CLOSE	2.663%

8月のポジション動向



9月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・RBAキャシュターゲット(1日)
- ・豪4-6月GDP(2日)
- ・豪7月貿易収支(3日)
- ・豪7月小売売上高(3日)
- ・米8月雇用統計(4日)
- ・中国8月貿易収支(8日)
- ・豪8月雇用統計(10日)
- ・中国8月消費者物価指数(10日)
- ・中国8月小売売上高(12日)
- ・中国8月鉱工業生産(12日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・RBA議事録(15日)
- ・中国9月財新製造業PMI・速報(23日)

9月の見通し

8月の豪ドル/円相場は追加利下げ観測が後退した事で一時ジリ高となるも、その後は中国の景気減速懸念を背景とする世界的なリスク・オフの渦の中で急落する事となった。また、原油価格などの大きな下げも豪ドル/円には重石となったようだ。

9月1日のアジア市場中、RBAは政策金利の据え置きを発表し、声明では「経済はしばらくの間たるみがある見通し」「金融政策は緩和的である必要」「豪ドルは商品相場の大幅な下落に調整されつつある」「中国の状況は最近さらに軟化」などとし、中国について懸念をわずかに強めながらも、追加利下げを意識させるような内容にはならなかった。ただし、市場では積極的に豪ドル/円を買うに至っていない。引き続き主要国の株価が伸び悩んでいる事が豪ドルの重石となっている様子が見受けられる。9月も引き続き、中国経済の様子や、それを受けた主要国株価の動きが、豪ドル相場の行く末を決める事となるだろう。

また、9月に関しては米国の利上げも為替市場全体の関心事となる見通しだ。8月の主要国株の大幅安を受けて一時はすっかり萎んだ「米国の9月利上げ観測」だったが、月初の時点では「可能性は否定できない」というところまで戻ってきている。結論はFOMCの声明発表のある9月17日まで分ならず、市場は米国の各種経済指標を眺めながら一喜一憂する状態が続くだろう。為替市場としては米ドル主導の動きとなるため、豪ドル/円相場には乱高下の要因としてまず受け止められるが、FOMCへ向けた観測・実際の決定を受けて主要国株価が大きく動けば、豪ドル/円にも方向感が出てくる可能性がある。(石川)

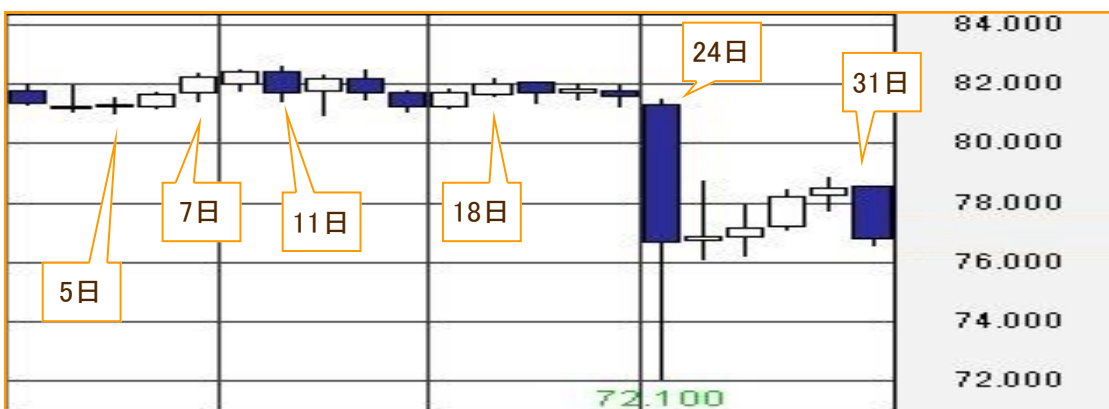
(予想レンジ: 82.000~88.700円)

NZドル/円 8月の推移

NZD / JPY

8月のNZドル/円相場は72.100～82.639円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.0%の大幅な下落(NZドル安・円高)となった。

夏季休暇入りする市場関係者が多く、中旬までは82円ちょうどを挟んでもみ合いに終始していた。しかし、中国の景気減速懸念を背景とする主要国株価や国際商品価格の急落を受けて、NZドル/円は大きく失速。2013年1月以来の安値水準である72.100円の安値を付けた。下げ一服後は自律反発したものの、中国経済への懸念を完全に払拭するには至らず、76円台から78円台でのみ合いになった。



四本値

OPEN	81.812
HIGH	82.639
LOW	72.100
CLOSE	76.827

5日	NZ4-6月期失業率は5.9%(市場予想:5.9%)、雇用者数増減は前期比+0.3%(同:+0.5%)、前年比+3.0%(同:+3.4%)となった。雇用者数の伸びが予想よりも弱かった事を受けて発表直後のNZドル/円は一時下落したが、81.00円付近では底堅さを見せた。
7日	乳業大手フォンテラが乳製品支払価格見通しを引き下げたと発表すると、NZドルは売り優勢となった。しかし、豪中銀(RBA)の発表した四半期金融政策報告を受けて豪ドル/円が上昇すると、連れて上昇転換。米7月雇用統計が概ね予想通りだった事を背景に9月利上げ観測が維持されるとNYダウ平均は下落したが、これを受けて米長期金利が低下すると、NZドル/米ドルが上昇。NZドル/円はこれに連れて82.40円前後まで値を伸ばした。
11日	中国が人民元の基準値の切り下げを実施。NZドル/円相場では「NZの最大貿易相手国である中国の人民元切り下げは、NZの対中国貿易にはマイナス」と受け止められ、NZドル安が進んだ。
18日	フォンテラの電子入札(GDT)の物価指数が前回比+14.8%と、5カ月以上ぶりに上昇したが、NZドルの反応は限られた。
24日	日経平均、中国株が大きく下げた事を受けてNZドル/円は下落。さらに、欧州・米国市場でも主要国株が急落した事で円が全面的に上昇する中、NZドル/円は72.100円と2013年1月以来の安値を付けた。
31日	NZ7月住宅建設許可が好結果だった事を好感してNZドルは買い優勢で反応。しかし、その後に英紙フィナンシャル・タイムズが「中国政府は大規模な株式購入で株価を押し上げる試みを中断すると決定」と報じた事を受けて軟化した。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	20540.21
HIGH	20946.93
LOW	17714.30
CLOSE	18890.48

NYダウ平均

OPEN	17696.74
HIGH	17704.76
LOW	15370.33
CLOSE	16528.03

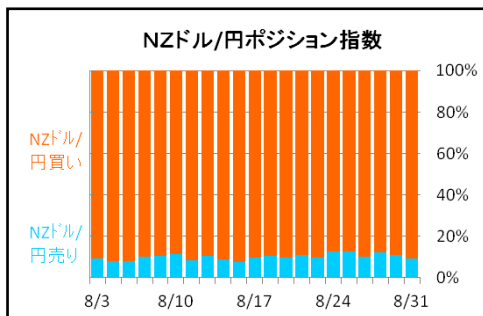
上海総合指数

OPEN	3614.990
HIGH	4006.337
LOW	2850.714
CLOSE	3205.986

NZ10年債利回

OPEN	3.325%
HIGH	3.386%
LOW	3.135%
CLOSE	3.223%

8月のポジション動向



9月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・NZフォンテラ入札(1日、15日)
- ・米8月雇用統計(4日)
- ・RBNZオフィシャルキャッシュレート(9日)
- ・日銀金融政策決定会合(14~15日)
- ・米FOMC(16-17日)
- ・NZ4-6月期GDP(17日)
- ・中国9月財新製造業PMI・速報(23日)
- ・NZ8月貿易収支(24日)
- ・主要国株価、国際商品市況

9月の見通し

NZ中銀(RBNZ)は7月の理事会で0.25%の利下げ(市場予想通り)を発表。声明文では「現時点では幾分の追加緩和の可能性が高いと思われる」「NZドルは4月から著しく下落した」としており、追加利下げへのスタンスが和らぎ、NZドル安誘導的な文言も弱くなったと看做され、この時のNZドル/円は上昇した。しかし、中国の景気減速懸念が非常に強く、中国を最大貿易相手国とするニュージーランドには逆風と受け止められている。市場ではRBNZが9月9日に0.25%の追加利下げ(3.00%→2.75%)を決定するとの見方が強い。RBNZが利下げを決定しなければNZドルは大きく上昇しそうだが、声明において中国への懸念が強く示されれば、市場は次回理事会での利下げを意識し、NZドルの上昇幅は限られよう。一方、追加利下げが決定された場合、NZドルは初動は下落すると考えられるが、下げが継続するかどうかは声明の内容次第と言える。引き続き中国への警戒感が強く、さらなる追加利下げも辞さない姿勢を見せれば一段安となるが、利下げの当面打ち止めを匂わせるようなら、下げた後のNZドル買い戻しも大きなものになるだろう。

ただ、月を通して材料視されるのは、やはり主要国株価の方向感になってこよう。また、9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)が利上げを行うかどうか大きな波乱材料だ。いずれにせよ、ドルは大きく動き、NZドル/円はドル/円とNZドル/米ドルの狭間で乱高下しそうだ。上下に大きく振れる可能性を常に念頭において取引したい。(石川)

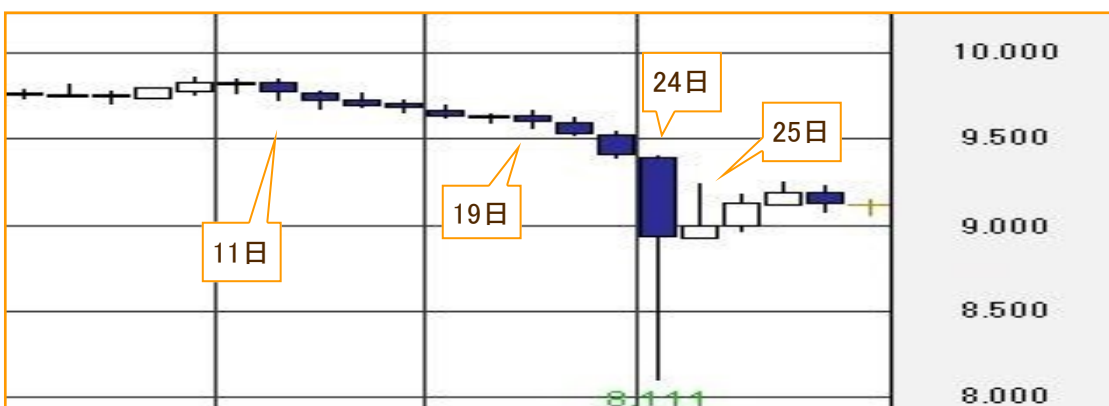
(予想レンジ: 73.000~80.000円)

ランド/円 8月の推移

ZAR/JPY

8月のランド/円相場は8.111～9.863円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.7%の大幅な下落(ランド安・円高)となった。

中旬以降、中国の景気減速懸念が強い中で、中国を最大貿易相手国とする南アにはマイナスと受け止められ、ランドはジリジリと下落。下旬に入り、この中国景気減速懸念が主要国株の急落を引き起こすと、ランド/円は8.111円と2008年10月以来の安値を付けた。南アフリカ独自の要因はほとんど材料視される事は無かった。



四本値

OPEN	9.757
HIGH	9.863
LOW	8.111
CLOSE	9.122

11日	中国が人民元の基準値の切り下げを実施。ランド/円相場では「南アフリカの最大貿易相手国である中国の人民元切り下げは、南アの対中国貿易にはマイナス」と受け止められ、ランド安が進んだ。
19日	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が公表され、「労働市場やインフレ見通しに幾らかのさらなる改善が見られた際に利上げを行う」「利上げは依然として正当化できないが状況は利上げに近づいている」「ほとんどのメンバーが労働市場のたるみを減らすさらなる余地があると述べた」「中国株式市場の下落やギリシャ協議、プエルトリコについて議論」などがあった。9月利上げについて明確な示唆が無かった他、中国経済に言及した事から「予想されたほどタカ派的でない」と解釈されると、米長期金利が低下し、ドルは全面的に下落。この中でドル/ランドは下落したが、ランド/円はドル/ランドとドル/円が相殺し合う中で乱高下となった。なお、この日に発表された南ア7月消費者物価指数は前年比+5.0%と市場予想通り、コア指数は+5.4%と予想(+5.5%)を僅かに下回った。また、同国6月小売売上高は前年比+3.5%と予想(+3.3%)を上回った。しかし、それぞれに対し、ランドの反応はほとんど見られなかった。
24日	日経平均、中国株が大きく下げた事を受けてランド/円は下落。さらに、欧州・米国市場でも主要国や国際商品価格が急落する中、ランド/円は8.111円と2008年10月以来の安値を付けた。
25日	南アの最大貿易相手国である中国において、中国人民銀行が貸出金利と預金金利をそれぞれ0.25%引き下げた上、預金準備率を0.50%引き下げた。これを受けて、欧州株が上昇すると、ランド/円は上昇。しかし、プラス圏で推移していたNYダウ平均が引けにかけて失速すると、ランド/円も上昇幅をほぼ消した。なお、南ア4-6月期国内総生産(GDP)は前期比年率-1.3%と予想(+0.6)に反してマイナス成長となったが、ランド/円相場ではほぼ材料視されなかった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	20540.21
HIGH	20946.93
LOW	17714.30
CLOSE	18890.48

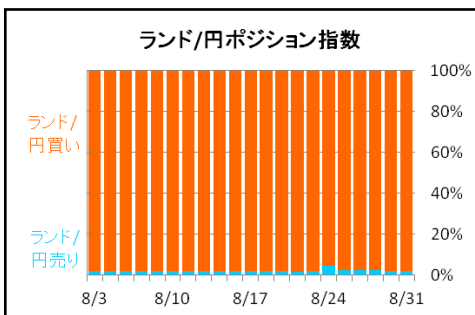
NYダウ平均

OPEN	17696.74
HIGH	17704.76
LOW	15370.33
CLOSE	16528.03

N Y 金

OPEN	1095.10
HIGH	1169.80
LOW	1080.20
CLOSE	1132.50

8月のポジション動向



9月の注目ポイント

- ・米8月雇用統計(4日)
- ・日銀金融政策決定会合(14~15日)
- ・南ア7月小売売上高(16日)
- ・米FOMC(16-17日)
- ・SARB政策金利発表(23日)
- ・南ア8月消費者物価指数(23日)

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・南ア8月生産者物価指数(23日)
- ・南ア8月貿易収支(30日)
- ・主要国株価、国際商品市況

9月の見通し

8月のランド/円は中国の景気減速懸念と、それを背景とする主要国株価の動向などに振られる展開で、相変わらず南アのファンダメンタルズはほとんど材料視されなかった。南ア中銀(SARB)のグガニャゴ総裁は同国のインフレの高止まりに対して強い懸念を表明しているが、南ア自身の景気減速懸念が強い中で、同総裁の望むペースでの利上げが出来ない状態だ。さらに、8月に発表された同国8月消費者物価指数は市場予想と同程度かやや低い状態で、これまで以上に利上げを急ぐ環境がない。つまり、よほど状況が急変しない限り、SARBが9月利上げを急ぐ理由はなく、南ア発の要因で相場が動くことはほとんど期待できそうにない。基本的に主要国株価睨みの状況が続くそう。

「主要国株価の方向感」を考える上で、中国経済の動向に関する指標や各種報道、そして、米国の9月利上げと、それを織り込むための各種指標や要人発言には注目だ。中国の景気減速懸念が引き続き強ければ中国株には圧迫要因になり、ランド/円には下押し圧力が掛かる。また、米国の9月利上げ観測が再び強まれば、NYダウ平均の重石になる可能性もあろう。その場合もランド/円は下落すると考えられよう。ただ、主要国株価が8月の中国ショックをこなす形で堅調さを取り戻せば、ランド/円は9円台後半までジリジリと下げ幅を縮小してくるものとする。

(石川)

(予想レンジ: 8.600~9.500円)